



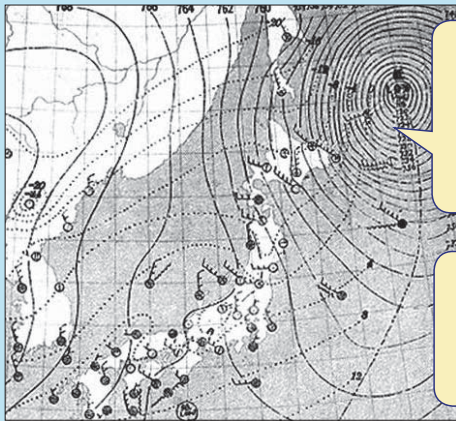
じゃがいもずきん
「ききぼう」くん

防災ワンポイント 第21回 暴風雪に備えて②

暴風雪に備えて、天気予報を見聞きするときには、天気がどのように変化していくか確認することも必要です。風の強さや流れ、どうしてそのような予報になるのか、天気図の動きから危険を読み解きます。また、過去の事例をもとに、どのようなときに特に強い暴風雪となるのかがわかります。今回は中標津町で被害が大きかった暴風雪時の天気図から、どうして風が強くなるのか確認します。

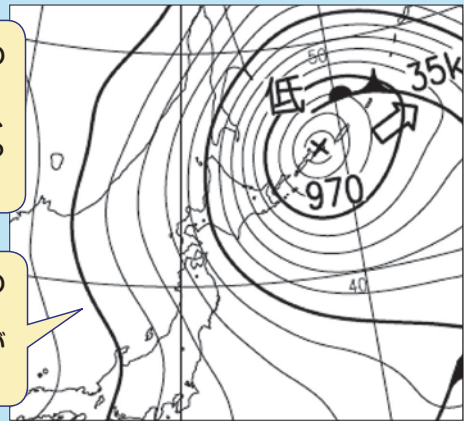
●中標津町で被害が大きい暴風雪の特徴は？

下記のような「西高東低」の気圧配置（西側に高気圧、東側に低気圧）で、網走沖や根室沖の低気圧が発達して北西方向から強い風が吹くときに被害が大きくなる特徴があります。



昭和8年1月18日18時の
天気図（標津村分村前）
養老牛・開陽で児童6人、
武佐で大人1人が亡くなる
猛吹雪

平成25年3月2日21時の
天気図
町内で5人（道内9名）が
亡くなる猛吹雪

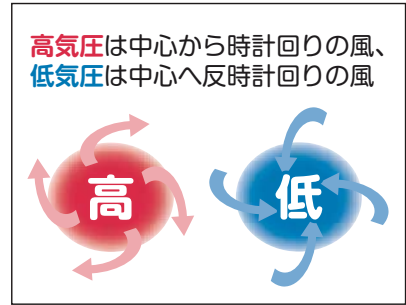


出展：近代デジタルライブラリーHP掲載 天気図 昭和8年1月 至3月、釧路地方気象台HP掲載 気象速報

2つの天気図を見比べると良く似た気圧配置です。等圧線と呼ばれる、同じ気圧同士を結ぶ線の間隔が北海道付近で狭くなっています。風は等圧線に沿って吹き、線の間隔が狭いと強くなる性質があります。また、右の図のように、低気圧は中心に向かって反時計回りに風が流れます。そのため、上の2つの図では、発達した低気圧によって等圧線が込み合っており、中標津町では強い風が北西方向から吹くこととなります。

さらに町の北側は山があるため、北西方向からの風は山から吹き降ろすことでさらに強くなります。普段は沿岸部に比べ風が穏やかな町ですが、このような天気図の時には「山おろし」によって特に強い暴風雪となります。

この天気図以外のパターンでも暴風雪にはなりますが、過去の事例で特に被害が大きい暴風雪災害の天気図の多くが上記2つの天気図に類似します。そのため北海道付近や北海道の南岸を低気圧が通過し、網走沖や根室沖で発達する上記の天気図のような気圧配置が予想される場合、猛吹雪の恐れがあるため外出を控えるといった危険を回避する対応が必要です。



○暴風雪の危険を回避するポイント

- ・悪天候が予想される場合は不要な外出は避け、職場等でも早めの帰宅を促しましょう。
- ・注意報や警報は天候が悪化する数時間前に発表されることがあるため、発表時点で異変がなくてもこれから悪化することを考え対応しましょう。

○もしも暴風雪に遭遇してしまったら…

- ・外出先で出歩くことが困難になった場合は、無理に帰宅しようとせず、安全な場所にとどまりましょう。風で飛ばされてくるものに注意し、体温の低下を防ぎましょう。
- ・車を運転しているときは安全な場所へ避難することが基本ですが、車が立ち往生し、周囲に避難できる建物が確認できない場合は、車内で助けを待ちます。停車中の車両は吹き溜まりが発生しやすいことに注意し、車が雪で覆われると、一酸化炭素中毒になる危険があるためエンジンは止めましょう。
- ・家の中に入るときも暖房などの給排気口が雪にふさがれ不完全燃焼による一酸化炭素中毒を起すことがあります。給排気口が雪で覆われていれば周りを除雪しましょう。

今回の天気図に関するポイントは、(独)防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 新庄雪氷環境実験所 中村 一樹研究員（気象予報士）に確認いただき作成しています。

詳しくは、総務課 防災係まで。